
岡山醫學會彙報

岡山醫學會通常會

同會は本月十八日午後三時より岡山醫大附屬醫院臨牀講義室に於て開會す田村主幹開會を報じ直ちに左の講演に移る

第一席 パネート氏病細胞に就て (第一報告)

病理學教室 河村九十九君

第二席 二三哺乳動物膀胱に於ける末梢運動神經主宰に
關する藥物學的研究

藥物學教室 山内正君

余は摘出膀胱に於ける切片懸垂法に據れる最近の研究者 Boehminghaus 及び生駒兩氏の實驗成績に多大の相違點あるを發見したれば、本問題に對して決定的解決を與へん爲め家兎、海猿、犬、猫及び「ラツテ」に就て精細なる實驗を遂行したり。

1. 「ピロカルピン」の興奮作用は、兩氏は利尿筋に於てのみ認めたるに、余は以上の總ての動物に於て利尿筋のみならず三角部に於ても之を認め、唯犬に於ては稍々微弱なるを見たり。生駒氏は雌性動物括約筋に於て該作用を認めしと云ふも、余は Boehminghaus 氏と同様之を證し得ざりき。

2. 「アドレナリン」の催進作用に就ては、生駒氏は括約筋及び三角部に於て、Boehminghaus 氏は以上兩部の他利尿筋下部に於ても認めたりと云ふに對し、余の實驗に於ては、唯犬に於ては Boehminghaus 氏の成績と一致せる結果を得たれ共、他の動物に於ては單に括約筋に於てのみ證明せり。

3. 「アドレナリン」の抑制作用に就ては、Boehminghaus 氏は唯猫の利尿筋に於てのみ觀察せしに反し、生駒氏は總ての動物利尿筋に於て例外なく之を認めたりと云ふ。余も亦一般に利尿筋に於て之を認めたれ共、其の反應の強弱は動物の種類に依り多様なるを認めたり。

最後に余は是等成績相違を來せる原因に關し、自己の意見を附加したり。尙ほ詳細は不日本誌上に發表すべし。(自抄)

第三席 所謂流行性腦炎の病理的變化

精神科教室 武野一雄君

第四席 所謂流行性腦炎後遺症患者の肝臟機能検査成績

第一内科教室 大森精一君

演者は所謂流行性腦後遺症患者6例につき諸種の肝臟機能検査法即ち含水炭素同化機能検査の諸法、ロッホ氏「メチレン」青試験、尿中「ウロビリ」及び「ウロビリノーゲン」検査、食餌性「ウロビリノーゲン」尿検査、白血球ウイダール氏反應の検査、血清中膽汁色素定量及び尿素構成機能の検査等を行ひたるに只白血球ウイダール氏反應のみは大多數例に於て陽性なりしも他の諸法は多くは陰性なりしを以て本病後遺症に於ては肝臟機能の障礙なきか之もあるも極めて輕度又は部分的なりと稱すべく之のことは本症に於て「バルキンソニスムス」を見ること比較的稀なる事實と共に、本症とエコノモ氏の嗜眠性腦炎との間の臨牀上の差別をなすものなりと述べたり。(自抄)

第五席 「チギタリス」簇の強心作用發現に對し「カルチウム」の

存在は絶對的に必要なるものなりや

藥物學教室 富永猪佐雄君

曩に Loewi 氏は蛙心に於て精細なる研究をなし「ストロファンチン」は「カルチウム」缺如のときは、其の作用を發現する能ざるを證し、又一方「カルチウム」を以て「ストロファンチン」と同性質の心臟作用を惹起せしめ得るを認め、此二つの事實より、同氏は「ストロファンチン」の作用は即ち感作せられたる「カルチウム」の作用なりとの臆説をなせり。

余は前業績に於て蛙心のみならず、家兎生體心臟に於ても「ストロファンチン」の作用發現には、「カルチウム」の存在必須なるを證し、更に「カルチウム」に對し過敏になれる心臟に對しては「ストロファンチン」は其效力を増進し、之に反して「カルチウム」に對し慣れたる心臟に於ては、效力減弱するを證せり。然れども上述の「ストロファンチン」の作用は「カルチウム」の作用なりとの Loewi 氏所説が果して正當なるや否やは尙ほ未解決なりき。

他方面に於て Stuber 及び Sano 氏は血液凝固の際に、「カルチウム」は他の「アルカリ」土類と同じく單に二價の「カチオン」として理學的意義を有するに過すして特異作用を有するものに非ざるを證せり。

茲に於て、若し「ストロファンチン」の作用發現に對し「カルチウム」の代りに爾他の「アルカリ」土類も等しく必要條件たるの性質を有すとせば、「カルチウム」は單に二價の「カチオン」として其の價を有するに過ぎることになる。殊に「カルチウム」と反對の作用を有する「マグネシウム」が「カルチウム」の代理たるの性質を有すとせば Loewi 氏の説に由り全く之を説明し得ざるに至る。

依て余は以上の疑問の下に、爾他の「アルカリ」土類即ち「ストロンチウム」、「バリウム」及び「マグネシウム」の「ストロファンチン」作用に對する關係を蛙心に於て詳細に檢じ、次の如き結論に到達せり。

1. 「カルチウム」以外の「アルカリ」土類は、「ストロファンチン」の作用發現に對して「カルチウム」の代理たるの性質を有し、其間唯定量的差異を認むるのみ。故に「カルチウム」は「ストロファンチン」の作用發現に對し、絶對的に必要なるものに非ずして、單に二價の「カチオン」として理學的意義を有するものなり。

2. 「アルカリ」土類中の「マグネシウム」が、軽度なるも明に認め得る程度に「カルチウム」を代理し得る性質を有するを以て、Loewi の所説は不合理なるものと信す。

尙ほ詳細は追て本誌に發表すべし。（自抄）

右終りて午後五時三十分閉會す。

役員會

本月十一日午後三時二十五分より岡山醫大に於て本會役員會を開き本會三十六回總會開會に就き協議し午後四時半散會したり詳細は本誌廣告欄にあり。

尙ほ當日の出席者は藤田會長、上坂副會長、石本、西川、奥島、大森、金子好本、田村、田中、八木田、福武、安藤、白坂、關場の各評議員なり。